

情報数学 III 中間試験 解答

1  $\vec{a} = (1, 2, 3), \vec{b} = (1, 1, -2)$

(1)  $\langle \vec{a}, \vec{b} \rangle = \|\vec{a}\| \|\vec{b}\| \cos \theta$  を用いる (2点) と,

$$\cos \theta = \frac{\langle \vec{a}, \vec{b} \rangle}{\|\vec{a}\| \|\vec{b}\|} = \frac{1 \times 1 + 2 \times 1 + 3 \times (-2)}{\sqrt{1^2 + 2^2 + 3^2} \sqrt{1^2 + 1^2 + (-2)^2}} = \frac{-3}{\sqrt{14} \sqrt{6}} = -\frac{3}{2\sqrt{21}}. \text{(2点)}$$

(2)  $\vec{a} \times \vec{b} = (-7, 5, -1)$ .

(3) 求めるベクトルを  $\vec{c}$  をおくと,  $\vec{c}$  は  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の両方に直交するので, 外積  $\vec{a} \times \vec{b}$  と平行である. つまり,  $\vec{c} = k(\vec{a} \times \vec{b})$  と書ける. さらに,  $\|\vec{c}\| (= |k| \|\vec{a} \times \vec{b}\|)$  は「 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  を 2 辺とする平行四辺形の面積」に等しいが, これは  $\|\vec{a} \times \vec{b}\|$  に他ならない (外積ベクトルの性質). したがって,  $|k| = 1$  である. つまり, 求めるベクトルは  $\pm(\vec{a} \times \vec{b}) = \pm(-7, 5, -1)$  (1つのベクトルしか書いていなければ 2点減点).

2  $\vec{p}(t, s) = (1 + t - s, 2 - 2t + s, 3 + t) = (1, 2, 3) + t(1, -2, 1) + s(-1, 1, 0)$

(1) 平面のパラメーター表示  $\vec{p} = \vec{a} + t\vec{v} + s\vec{u}$  (ただし,  $\vec{a}, \vec{v}, \vec{u}$  は定ベクトル) に対し,  $\vec{v}, \vec{u}$  を基底とよんだ. したがって,  $\pi$  の基底は  $(1, -2, 1)$  と  $(-1, 1, 0)$ .

(2) 法線ベクトルとは平面 (と平行なベクトル) に直交するベクトルのことであり, 基底の外積と平行である (2点). (1) より,  $(1, -2, 1) \times (-1, 1, 0) = (-1, -1, -1)$  であるから, 法線ベクトルは  $(1, 1, 1)$  (を定数倍したベクトル) である.

(3) 法線ベクトルが  $(1, 1, 1)$  で, 点  $(1, 2, 3)$  を通るので,  $(x - 1) + (y - 2) + (z - 3) = 0$ , つまり,  $x + y + z = 6$  (平面の方程式  $\langle \vec{p} - \vec{a}, \vec{n} \rangle = 0$  を理解しているようであれば 2点).

3  $\pi_1: x + 2y + 3z = 4, \pi_2: 3x + 6y + 7z = 10, \pi_3: 2x + 4y + kz = 5$

(1)  $\pi_1$  と  $\pi_2$  の方程式からなる連立 1 次方程式を解く (1点);

$$\left( \begin{array}{ccc|c} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 3 & 6 & 7 & 10 \end{array} \right) \xrightarrow{\text{行基本変形}} \left( \begin{array}{ccc|c} 1 & 2 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{array} \right) \quad \therefore \begin{cases} x + 2y = 1 \\ z = 1 \end{cases}$$

ここで,  $y = t$  とおくと,  $x = 1 - 2t$ . したがって,  $\ell$  上の点は  $(x, y, z) = (1 - 2t, t, 1) = (1, 0, 1) + t(-2, 1, 0)$  と表すことができる (2点). これは空間内の直線を表し, その方向ベクトルは  $(-2, 1, 0)$  (を定数倍したベクトル) である (2点).

(2)  $\ell$  上の点は  $(1 - 2t, t, 1)$  と表すことができる.  $\pi_3$  が  $\ell$  を含むとは,  $(1 - 2t, t, 1)$  を  $\pi_3$  の方程式に代入した式

$$2(1 - 2t) + 4t + k = 5$$

が任意の  $t$  について成り立つときをいう (実際に,  $t$  を含む項は消える). この式から  $k = 3$  を得る.

情報数学 III 中間試験 解答

4 線形変換の定義を理解していれば（行列の積の計算をしていけば）各 1 点，計算結果が正しければさらに各 2 点を加点.

$$(1) \ell_1 : \vec{p}(t) = (2+t, -3+2t), \ell_2 : \vec{q}(t) = (1-3t, 3+kt), M = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 4 \end{pmatrix}$$

(a)

$$\begin{aligned} f_M(\vec{p}(t)) &= \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2+t \\ -3+2t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8-3t \\ -16+6t \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 8 \\ -16 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

したがって，像は 直線 である.

(b)

$$\begin{aligned} f_M(\vec{q}(t)) &= \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -2 & 4 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1-3t \\ 3+kt \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -5-(3+2k)t \\ 10+2(3+2k)t \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} -5 \\ 10 \end{pmatrix} + (3+2k)t \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

したがって， $3+2k=0$  すなわち  $k = -\frac{3}{2}$  ならば，像は  $t$  に関係なく 1 点  $(-5, 10)$  となる.

$$(2) \pi : \vec{p}(t, s) = (1+t-s, 2-2t+s, 3+t), M = \begin{pmatrix} 0 & 2 & 3 \\ 3 & -5 & -9 \\ -2 & 4 & 7 \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} f_M(\vec{p}(t, s)) &= \begin{pmatrix} 0 & 2 & 3 \\ 3 & -5 & -9 \\ -2 & 4 & 7 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1+t-s \\ 2-2t+s \\ 3+t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 13-t+2s \\ -34+4t-8s \\ 27-3t+6s \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 13 \\ -34 \\ 27 \end{pmatrix} + (t-2s) \begin{pmatrix} -1 \\ 4 \\ -3 \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

これは点  $(13, -34, 27)$  を通り，方向ベクトルが  $(-1, 4, -3)$  の 直線 である.